

# 神大の留学生に聞く③ —モンゴル

法学部 法律学科4年 深沢 喜浩  
編集協力：外国語学部 英語英文学科4年 今村 豊

モンゴルといいますと、大草原の壮大なパノ

ラマや、相撲で有名な朝青龍のイメージが浮かんでくるかと思います。そんな大きな印象のあるモンゴルという国からこの神奈川大学に留学しにきたムンフジャラガル・ザヤーさんは、経済学部経済学科に在籍する一年生の女の子です。去年の四月から日本に来ているそうですが、予想以上に日本語が流暢で、インタビューを行う時にも様々な質問に、柔軟な笑顔で答えてくれました。

近くにありながら、意外と知らないことの多いモンゴル。ザヤーさん個人が日本という国で生活することをどう捉えているのかを伺うだけでなく、モンゴルから見た日本の文化や日本の話題についてなど、多くのことについてお話をることができました。今回は17号館にある人文

研究所にて、お昼ごはんを食べながらのインタ

ビューとなつたためか、出てくる話題は日常のことや趣味のことなど、留学生から見た留学生活がとても身近に語られています。以下にそのインタビューの内容を記したいと思います。

——ザヤーさんの学部学科を教えていただけますか？

経済学部経済学科です。

——基本科目はどのようなものを履修しているんですか？

芸術論（美術）とか技術論とかですね。あと文学も、とつていてるのですが難しくて。

簿記とか会計とかの勉強は専門的になつてきましたが、ミクロ経済学は少し苦手ですね。それと、この間簿記3級の試験を受けました。結果は出ました？

受かったかなとは思っていますが、結果はまだでていないです。



写真1 ホームステイ先でのザヤーさん

——学業以外には何かしているんですか？

アルバイトはしていないです。したいとは思っています。今は奨学金と仕送りがあるので、来年からは奨学金が貰えるかわからないので。

それと、部活動でアーチェリーをしています。

20号館の裏で練習することが多いんですけど、すごく面白いです。大会にも出たことがあります。新人戦とかいろいろでていますけど、なかなかうまくいかなくて。2年生に1人経験者がいるだけなので、あとはみんな初心者から始まるんですけど、みんなうまいんですよ。それに男の子ばかりで、1年生で女の子は2人しかいないんですよ。来年は女の子にも入ってほしいですね。

——何故アーチェリーを始めようと思つたのですか？

なんとなくです。最初はサークルに入ろうかと思ったのですが、週に何回か飲み会があるそうです、それはちょっと大変かなと思いました。

——土日など休日も部活をしているのですか？

土曜日は2時から中山で練習しています。アーチェリーの道具一式が重くて運ぶのが大変なんです。

——現在はどこに住まわれていますか？

ホームステイをしています。東京の杉並区です。ホームステイ先には、お姉さんが二人います。昔から何度か来ているので、家族とは仲がいいです。中学1、2年に、夏休みの1、2ヶ月間ホームステイをしてその後も日本語学校に通っていました。今回で日本は7回目です。なのでホームステイとはいっても気楽だし、とて

——モンゴルで日本文化というとどのようなものが思い浮かびますか？ やはり相撲とか？

そうですね、テレビでモンゴルの相撲を見たことがあるかもしれないんですけど、凄くつまんないんですよ（笑）。

それと比べて、日本の相撲はおもしろいですよ。短時間で勝負がつきますから。モンゴルの相撲はすごく長いんですよ。1時間以上かかるんですけど。そういうものは人気があります。すごく暖かいんですよ。たとえばモンゴルだと家の中もすごく暖かいんですよ。日本の家の中は寒くて、初めての冬を迎えた時は死ぬかと思いました。モンゴルでも外はすごく寒いんですけど、家のなかは暖かいんです。



写真2 京都は金閣寺にて

——ではモンゴルからお土産を持ってきたりはするのですか？

ゴビって知っていますか？ カシミヤなんですが。そういうものは人気があります。すごく暖かいんですよ。たとえばモンゴルだと家の中もすごく暖かいんですよ。日本の家の中は寒くて、初めての冬を迎えた時は死ぬかと思いました。モンゴルでも外はすごく寒いんですけど、家のなかは暖かいんです。



写真3 ザヤーさんの一番下の妹さんの一歳の誕生日

—留学するにあたって、何故日本を選んだのですか？

モンゴルの学校で小学2年生から日本語を習ってきました。お兄ちゃんもその学校で日本語を習っていたから、それの影響もあると思うんですが、とにかく親が日本語を選んでくれたからです。それから卒業するまでの9年間勉強してきました。なので、日本語をもっと頑張って上手くなるために日本の大学で経済を学ぶこと

にしたんです。

—日本にあるもので、これが好き、というものがあれば教えてください。

明石家さんまが大好きなんですよ。土曜日の夜の番組毎回観ています。音楽だと以前は宇多田ヒカルが大好きでCDは全部買いました。最近だとEXILEが好きですね。ちなみにモンゴルでも日本のCDを売つてはいるのですが、日本語の勉強をしているとか日本に留学したことある人達しか興味を持ちませんね。

—海外では日本の漫画が人気だという話をよく聞きますが、ザヤーさんは日本の漫画を読みますか？

以前は少女漫画しか読まなかつたのですが、友達に借りて読んだ『BLEACH』はすごく面白かったです。最近は『ONE PIECE』を読んでいます。少女漫画だと『ラブコン』とか、あとは『のだめカンタービレ』が好きです。お姉さんは漫画が好きなので、お姉さんが買つたり、私が買つたり、最初に買つてた人が貸したりしますね。

小説と比べて、漫画は絵も付いているのでわかりやすいです。登場人物も何回も描かれますから理解しやすいですよ。

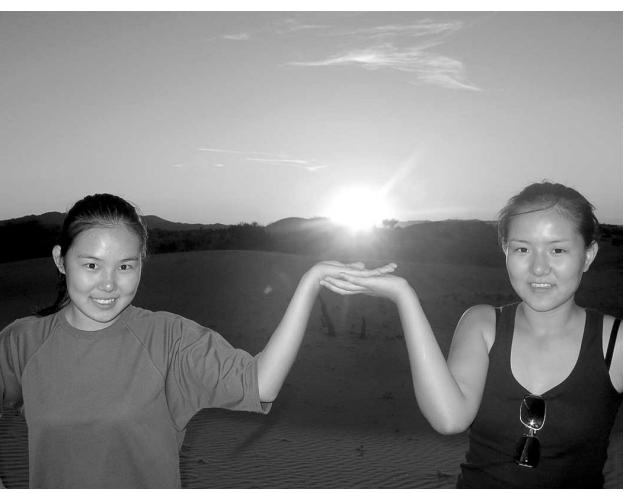


写真4 去年の夏に妹さんとモンゴルのゴビに行った時の写真

—日本食は食べられますか？

でも日本食はあまり好きではないんです。モンゴルでは海のものはないですから。それと、納豆は食べたことがないんです。見るだけでも。友達が納豆は絶対食べては駄目と言つていました。お寿司も食べたことないです。海魚が全然食べられないんです。日本で魚が食べられないと大変ですよね。

—では、逆にモンゴルのもので、これは是非日本に広めたいというものはありますか？

うーん、そうですね……自然ですね。街を少し離れると、とても広い草原があるんですよ。すごく気持ちがいいですよ。土日はいつも街を離れて一日中そういうところで過ごしたりしますね。空気もすごい綺麗ですし。東京はどこに行つてもビルばかりじゃないですか。息苦しいです。

—最後にお聞きします。将来どのようなことをしたいですか？

大学4年間一生懸命勉強して、モンゴルに帰つて家族で経営している会社を続けていけるよう、役に立つ人間に成りたいと思っています。



写真5 冬のモンゴルの平原

—モンゴルの漫画にはどのようなものがあるんですか？

二年前に出た漫画でチンギス・ハーンについて描かれた漫画があるんですが、結構面白いんですよ。でも、(国語辞典くらいの大きさを描きながら)こんなに大きいんですよ。ハードカバーの本みたいになつていてオールカラーナんですよ。でも、この大きさはちょっと違うなと思います。

—インタビュー内容をお読みになつていただくと解ると思うのですが、ザヤーさんは日本の学生となんら変わり無い生活を送っています。買物もするし、日本で人気の漫画も読むし、さんさんの魅力も見抜いています。そう考えると、こうしてお話をする上では、国や文化の違いというのはそれほど壁にならないように思えます。勿論、ザヤーさんの場合、以前から日本に何度も訪れていた経緯がありますし、日本語も流暢なのでなおさら親近感を覚えやすいといふのはあります。しかし、たとえそうした背景が無かつたと考えても、ザヤーさんの物の見方はやはり今の日本の学生と比べてそれほどの違ひはないのではないかでしょうか。その上、ザヤーさんは会計や簿記の勉強を楽しんでやつるし、それを母国にいる家族のために役立てようという意志も持ち合わせています。むしろ同じ学生である私達から見れば、とても立派だと思います。

経済学科1年のザヤーさんはこれから3年間できつと多くのことを学んでいくでしょう。それと同時に、そうした留学生と関わる中で、私達日本の学生自身も多くのこと学ぶ機会があると思います。この限られた4年間という時間を、有意義に過ごせたのなら、それは恐らく私達にとっても、ザヤーさんにとっても糧になつていく経験になることでしょう。そしていずれ母国の家族のために経済の知識を身につけて成長したザヤーさんは、やっぱりさんまさんの事が好きでしょう。